

## 一人ひとりの自立をめざした学級づくり

### I 主題設定の理由

社会生活の激しい変化の中で、子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。多くの問題を抱える現代社会において人々は、自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが、人とのつながり、思いやりや親切の心となると希薄になってきているように感じる。現代社会においては、競争を乗り切り、自分さえよければよいといった風潮があり、他者を省みない傾向がある。そうした社会の流れの中で、学校においても「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な問題が起きている。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが集団の一員として互いに認められ、楽しく生活し、学ぶための空間が確保できるような学級集団づくりが求められる。そしてさらに、自分たちの思いによって自治的な活動を創り出し、そこから学びあえる学習集団にまで高めていく必要があると考える。

そこで、本部会では、一人ひとりが認められる学級づくりをめざして、「一人ひとりの子どもが居心地の良い集団づくり」、「人間関係の絆を強め、人とのつきあい方を学んでいく場面づくり」について研究を進めてきた。今年度も、子どもたち同士のつながりを大切にしたい学級づくりを目指し、問題の予防に努めていく中で、「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について明らかにするための研究を行っていく。

### II 研究の内容

#### 1 研究の方法

(1) 各個人の取り組みや実践を発表し、研究討議する。

〈レポートの例〉

エンカウンター、特別活動の充実、学級会の進め方、班長指導、朝の会・帰りの会の進め方、係活動、学級力向上のための取組など学年の発達の段階や各学級の実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

(2) 講師を招き「学級づくり」または「子どもの権利条約」についての学習会を行う。

(3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

#### 2 研究の具体的内容

##### (1) 第1回研究会

今年度の研究の方向性の確認・・・研究テーマ・研究方法について

##### (2) 第2回研究会

年間計画についての検討・確認

##### (3) 第3回研究会 実践発表 I

- ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
- ＊子供たちが「出来た」を実感できる指導の実践
- ＊子どもの思いを活かした学級活動の工夫
- ＊学級力の取り組みを通じた実践
- ＊子どもの自主性を育てる教室環境の工夫

##### (4) 第4回研究会 夏季学習会

- ・「子供の自治を支える共同体感覚」 講師：北杜市立泉小学校 佐藤丈教諭
- ・授業案検討会

- (5) 第5回研究会 授業研究①
- ・学級活動
  - 「グループトレーニング『人間コピー』」(加納岩小6年 雨宮 倫正先生)
- (6) 第6回研究会 実践発表Ⅱ
- ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
  - \*エンカウンターを取り入れた学級づくりの実践
  - \*教師と子供たちの関係を大切にしたい学級づくりの実践
  - \*クラス会議の実践を通じた子供たち同士の関係づくり
  - \*出来ることを認め、伸ばしていく低学年の指導
- (7) 第7回研究会 実践発表Ⅲ
- ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
  - \*外部との連携による、課題を抱えた児童の指導について
  - \*個を大切にしたい、交流学級での支援の工夫
  - \*共通のめあてを設定することにより、集団の力を高める実践
- (8) 第8回研究会
- ・授業案検討会
- (9) 第9回研究会 授業研究②
- ・学級活動 「卒業に向けて」(日下部小6年 廣瀬 剛先生)
- (10) 第10回研究会 実践発表Ⅳ
- ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」
  - \*個を大切にしたい、一人一人の役割を明確にした指導の実践
  - \*ほめ言葉のシャワーを通じた、認め合いの学級づくり
  - \*それぞれの良さを見つけあえる学級指導の実践
  - ・研究のまとめ(成果と課題)

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

- ・実践発表を通して山梨市の学級力や甲州市のQ-Uについて学びあい、学級づくりに生かすことができた。どの実践も子供たちの居場所を作り、一人一人に寄り添ったものであり、様々な手法や工夫を学ぶことができた。
- ・夏季学習会では共同体感覚の育成について学ぶことが出来た。アドラー心理学に基づく子供地の関わり方が非常に参考になり、子供の見方・接し方を見直すことができた。
- ・2本の授業は新しい手法を学んだり、子供たちが活発に交流する姿を見たりすることができ、とても勉強になった。どちらの授業も教師の細やかな児童理解が土台となっており、研究テーマ「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」に基づいた授業であった。

#### 2 課題

- ・一つの部会から、県教研の二つの部会に参加しなければならなくなり、負担が大きかった。見直しをお願いしたい。
- ・中学校の先生にも、もっと所属してもらいたい。話し合いの様子や、児童会・生徒会の活動についても交流できるとさらによいと思う。
- ・研究授業、レポート発表など全員参加型になっており、教師力の向上に有効であったと感じる。今後は模擬授業などの機会を増やし、具体的な指示の出し方や子供たちへの関わりについても学びあう機会があればよいと思う。

(部長 岩下 和子)